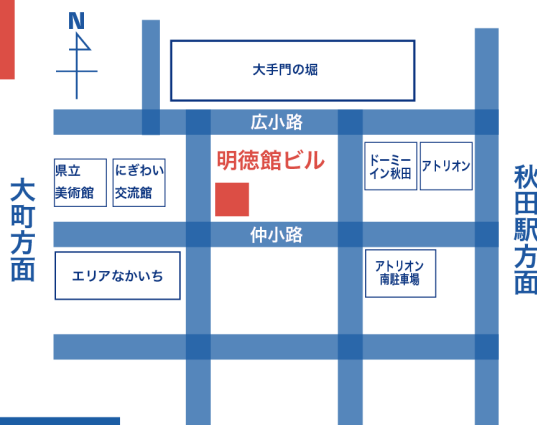


「あのビル」

—The Former Symbolic Building—

人口減少、空き家の増加 ... 地方で深刻化する都市問題。

現状を憂うのではなく何ができるのかを、3名の作家が「あのビル」を通して問いかける。



会場

明徳館ビル1F

秋田県秋田市中通2丁目1-51

アクセス

秋田駅西口

徒歩 10分

バス停 千秋公園入り口

徒歩 2分

トークイベント

空きビルについて考える
—都市の余白の可能生—

11/23(土)

14:00~15:30

明徳館ビル 1F

ゲスト

ゲスト

芦立さやか × 藤浩志 × 佐藤ことみ × 高升梨帆



観覧申し込みはこちらから
当日参加も歓迎です！

小さなプロジェクトから始まった本展。その経緯に触れながら本展の感想や、ゲストの2人がどう捉えたのか伺う。

トークテーマの「空きビル」活用のヒントから秋田市の未来まで、私たちはどんな事ができるのか深掘りしていく。

ゲスト

芦立さやか

秋田市文化創造館ディレクター
アートコーディネーター



北海道生まれ、武蔵野美術大学芸術文化学科卒業。物心ついたころからチラシなどに示された建築図面に家具を配置したイラストなどを描き、様々な家を想像する楽しさに目覚める。大学在学中から様々な文化施設や団体に勤めてきたが、現在勤務する秋田市文化創造館含め、元々別の目的で作られた建物に関わることが多い。

ゲスト

藤浩志

美術家

秋田公立美術大学教授



鹿児島生まれ。京都市立芸術大学大学院美術研究科修了、パプアニューギニア国立芸術学校講師、都市計画事務所勤務を経てジャンルにこだわらないプロジェクト型の美術表現を実践。2012年より東北に拠点を移し十和田市現代美術館館長を経て現職。主な作品：「ヤセ犬の散歩」「お米のカエル物語」「Kaekko」等 <https://www.fujistudio.co>



佐藤ことみ

アーティスト
秋田公立美術大学大学院修士2年

秋田公立美術大学在学中から緑屋ビルに出会い、何らかの縁で空きビルに関わるプロジェクトを行ってきた。「考余学」という都市の余白について考える独自の造語に基づき、自由律俳句や立体作品などを制作し研究活動を行う。



伊東陽菜

アーティスト
横浜国立大学大学院修士2年

北海道出身。学部時代は秋田公立美術大学に在籍し、都市や地域をキーワードに制作をした。現在は横浜国立大学大学院で都市社会学の領域から限界ニュータウンの研究を行い、郊外や地方のあり方や活用を考えている。



伊多波七維

アーティスト

大館市出身。秋田公立美術大学景観デザイン専攻卒。学生時代から消滅可能性自治体のシャッター街とコミュニティの関係についてリサーチベースの作品を制作。最近では地域住民のコミュニティとしての文化財の可能性についてリサーチ中。



高升梨帆

キュレーター
秋田公立美術大学大学院修士1年

広島県尾道市生まれ。秋田公立美術大学大学院在学中。空き家再生を果たした尾道市の映画館でスタッフとしてアルバイト、カフェでのんびりと過ごしてきた。秋田にある空き家や秋田で作られる作品、空間に関心がある。